

令和3年10月25日（月）

令和3年度 第2回福岡県がん対策推進協議会

小児がん拠点病院事業報告

第16回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会について	資料1
第14回小児がん拠点病院連絡協議会について	資料2
令和3年度小児がん拠点病院事業について	資料3
第4回小児がんの子どもの教育を考える講演会について	資料4
小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会について	資料5
令和3年度九州・沖縄ブロック小児がん看護研修会について	資料6
第41回九州大学病院小児緩和ケアチーム勉強会 特別講演について	資料7

第16回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

資料1

日時：令和3年2月22日(月) 16:00～17:00

開催方法：WEB会議

I 開会挨拶（協議会副委員長 九州大学病院小児科 大賀 正一）

II 議事

1. 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制について

- (1) 委員名簿 資料1 (P1)
- (2) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会会則 別紙資料1-1
- (3) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制図 別紙資料1-2

2. 前回議事録の確認

第15回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会（令和2年3月23日） 資料2 (P2-4)

【協議事項】

- 3. 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制および小児がん連携病院について 資料3 (P5-8)
別紙資料2
- 4. 小児がん地域計画書について 資料4 (P9)
別紙資料3 (拡大版)

【報告事項】

5. 小児がん拠点病院連絡協議会について

- (1) 第13回 小児がん拠点病院連絡協議会報告 資料5-1 (P10-25)
- (2) 第13回 小児がん拠点病院連絡協議会・相談支援部会報告 資料5-2 (P26-30)
- (3) 第5回小児がん拠点病院病理診断部会 資料5-3 (P31-33)
- (4) 令和2年度 第1回 QI 松本班 班会議報告 資料5-4 (P34-37)
- (5) 厚生労働科学研究 大隅班 班会議報告 資料5-5 (P38-40)

6. 小児がん拠点病院について

- 令和2年度活動報告 資料6 (P41)
 - ① 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議 資料6-1 (P42)
 - ② 九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議 資料6-2 (P43)
 - ③ 九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告 資料6-3 (P44-45)
 - ④ 九州大学病院小児がん相談支援活動報告 資料6-4 (P46-47)
 - ⑤ 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第5回相談支援部会報告 資料6-5 (P48-54)

7. その他

- (1) 令和2年度小児がん連携病院 QI 実務者説明会について 資料7-1 (P55)
- (2) 小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会 (L-CAS) 資料7-2 (P56)
の開催について

【各県より報告】

- 8. 九州・沖縄地域各県の小児・AYA 世代がん患者に関する支援について 資料8 (P57-58)
 - ・福岡県 ・佐賀県 (資料 P58) ・長崎県 ・熊本県 ・大分県
 - ・宮崎県 ・鹿児島県 ・沖縄県 (欠席)

III 閉会挨拶（協議会副委員長 九州大学病院小児科 大賀 正一）

次回開催予定：令和4年1月8日（土）（第27回九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会と同日）

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

令和3年2月22日現在

委員等	該当条項	県	病院名	所属	職名	委員氏名	出欠	代理出席者
委員長	会則第3条1項1号	福岡県	九州大学病院	病院長	病院長	赤司 浩一	×	
副委員長	会則第3条1項1号	福岡県	九州大学病院	小児科	教授	大賀 正一	○	
副委員長	会則第3条1項1号	福岡県	九州大学病院	病理診断科・病理部	教授	小田 義直	○	
副委員長	会則第3条1項1号	福岡県	九州大学病院	がんセンター長	准教授	水元 一博	×	
委員	会則第3条1項2号	福岡県	九州がんセンター	小児科	医長	中山 秀樹	代理	野口 磨依子 上田 圭希
委員	会則第3条1項2号	佐賀県	佐賀大学医学部附属病院	小児科	診療講師	西 眞範	○	
委員	会則第3条1項2号	長崎県	長崎大学病院	腫瘍外科（第一外科）	助教	田浦 康明	×	
委員	会則第3条1項2号	長崎県	長崎大学病院	小児科	助教	船越 康智	○	
委員	会則第3条1項2号	大分県	大分大学医学部附属病院	大分こども急性救急疾患学 部門医療・研究事業	教授	末延 聡一	○	
委員	会則第3条1項2号	熊本県	熊本大学病院	小児外科	助教	本田 正樹	○	
委員	会則第3条1項2号	熊本県	熊本大学病院	小児科	助教	阿南 正	○	
委員	会則第3条1項2号	宮崎県	宮崎大学医学部附属病院	小児科	教授	盛武 浩	○	
委員	会則第3条1項2号	鹿児島県	鹿児島大学病院	小児外科	教授	家入 里志	○	
委員	会則第3条1項2号	鹿児島県	鹿児島大学病院	小児科	教授	河野 嘉文	代理	岡本 康裕 西川 拓朗 児玉 祐一
委員	会則第3条1項2号	沖縄県	琉球大学病院	第一外科	教授	高槻 光寿	代理	久田 正昭
委員	会則第3条1項2号	沖縄県	琉球大学病院	小児科	診療教授	百名 伸之	○	
委員	会則第3条1項3号	福岡県	北九州市立八幡病院	小児科	主任部長	安井 昌博	○	
委員	会則第3条1項3号	福岡県	産業医科大学病院	小児科	教授	楠原 浩一	代理	本田 裕子
委員	会則第3条1項3号	福岡県	福岡大学病院	小児科	准教授	野村 優子	○	
委員	会則第3条1項3号	福岡県	久留米大学病院	小児外科	主任教授	八木 実	代理	深堀 優
委員	会則第3条1項3号	福岡県	久留米大学病院	小児科	講師	大園 秀一	○	
委員	会則第3条1項3号	大分県	大分県立病院	—	—	—	×	
委員	会則第3条1項3号	熊本県	熊本赤十字病院	小児科	部長	右田 昌宏	○	
委員	会則第3条1項3号	鹿児島県	鹿児島市立病院	小児科	科長	新小田 雄一	○	
委員	会則第3条1項3号	沖縄県	沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター	小児科（血液腫瘍内科）	部長	比嘉 猛	○	
委員	会則第3条1項3号	沖縄県	沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター	小児外科	部長	金城 僚	×	
委員	会則第3条1項4号	福岡県	福岡県	保健医療介護部 がん感染症疾病対策課	課長	佐野 正	代理	宗 健一郎 岩崎 誠
委員	会則第3条1項4号	佐賀県	佐賀県	健康福祉部健康増進課 がん撲滅特別対策室	室長	水町 智子	代理	熊谷 侑一郎
委員	会則第3条1項4号	長崎県	長崎県	福祉保健部医療政策課	課長	伊藤 幸繁	代理	大隈 輝美
委員	会則第3条1項4号	大分県	大分県	福祉保健部 健康づくり支援課	課長	二日市 聖子	代理	江藤 聖美 吉田 瑞穂
委員	会則第3条1項4号	熊本県	熊本県	健康福祉部 健康局健康づくり推進課	課長	亀丸 明弘	代理	平松 修一 村上 早紀
委員	会則第3条1項4号	宮崎県	宮崎県	健康増進課	課長	川越 正敏	代理	吉田 智美 黒田 和臣
委員	会則第3条1項4号	鹿児島県	鹿児島県	くらし保健福祉部 健康増進課	課長	亀之園 明	代理	西 玲奈
委員	会則第3条1項4号	沖縄県	沖縄県	保健医療部健康長寿課	課長	宮里 治	×	
委員	会則第3条1項5号	福岡県	九州大学病院	小児科	准教授	古賀 友紀	○	
委員	会則第3条1項5号	福岡県	九州大学病院	小児外科	助教	武本 淳吉	○	
オブザーバー	—	広島県	広島大学病院	小児科	助教	唐川 修平	○	
オブザーバー	—	熊本県	熊本医療センター	小児科	部長	水上 智之	○	

第 16 回九州・沖縄地域小児がん医家提供体制協議会議事録

日 時： 令和 3 年 2 月 22 日 (月) 16 : 00~17 : 00

開催方法： Web 会議

出席者：34 名

大賀 正一	九州大学病院 小児科	小田 義直	九州大学病院 病理診断科・病理部
中山 秀樹	九州がんセンター 小児科	西 眞範	佐賀大学医学部附属病院 小児科
船越 康智	長崎大学病院 小児科	末延 聡一	大分大学医学部附属病院 小児科
阿南 正	熊本大学病院 小児科	盛武 浩	宮崎大学医学部附属病院 小児科
家入 里志	鹿児島大学病院 小児科	岡本 康裕	鹿児島大学病院 小児科(代理)
百名 伸之	琉球大学医学部附属病院 小児科	久田 正昭	琉球大学医学部附属病院 第一外科(代理)
安井 昌博	北九州市立八幡病院 小児科	木田 裕子	産業医科大学病院 小児科(代理)
野村 優	福岡大学病院 小児科	大園 秀一	久留米大学病院 小児科
深堀 優	福岡大学病院 小児科	右田 昌宏	熊本赤十字病院 小児科
新小田雄一	久留米大学病院 小児科	比嘉 猛	沖縄県立南部医療センター 小児科
金城 徹	鹿児島市立病院 小児科		
古賀 友紀	沖縄県立南部医療センター 小児科	武本 淳吉	九州大学病院 小児科

宗 健一郎、岩崎 誠

福岡県 保健医療介護部がん感染症疾病対策課 (代理)

熊谷 伸一郎

佐賀県 健康福祉部健康増進課がん撲滅特別対策室 (代理)

大隈 輝美

長崎県 福祉保健部医療政策課 (代理)

江藤 聖美、吉田 瑞穂

大分県 福祉保健部健康づくり支援課 (代理)

平松 修一、村上 早紀

宮城県 健康福祉部健康づくり推進課 (代理)

吉田 智美、黒田 和臣

鹿児島県 福祉保健部健康増進課 (代理)

西 玲奈

鹿児島県 くらし保健福祉部健康増進課 (代理)

列席者：12 名

野口磨依子	九州がんセンター 小児科	上田 圭希	九州がんセンター 小児科
西川 拓朗	鹿児島大学病院 小児科	児玉 祐一	鹿児島大学病院 小児科
興紹 雅彦	北九州市立八幡病院 小児科	水上 智之	熊本医療センター 小児科
唐川 修平	広島大学病院 小児科		
清水絵里花	九州大学病院 小児がん相談支援センター	竹本 京司	九州大学病院 医務管理課
佐々木亜記	九州大学病院 医務管理課	象橋 陽子	九州大学病院 小児がん拠点病院事務局
大島 美保	九州大学病院 小児がん拠点病院事務局		

欠席施設：2 施設 大分県立病院、沖縄県保健医療部健康長寿課

I. 開会挨拶

大賀副委員長より会議に先立ち開会の挨拶があった。

II. 議事 (司会：大賀正一副委員長)

1. 九州・沖縄地域小児がん医家提供体制について

資料 1、別紙資料 1-1、1-2 に基づき、委員名簿、九州・沖縄地域小児がん医家提供体制協議会則、九州・沖縄地域小児がん医家提供体制図の確認を行った。

2. 前回議事録の確認

資料 2 に基づき、前回議事録の確認を行った。

【協議事項】

3. 九州・沖縄地域小児がん医家提供体制および小児がん連携病院について

大賀副委員長より、資料 3 に基づき以下の発言があった。

九州・沖縄ブロックでは現在 16 の施設を小児がん連携病院として指定している。各施設において、連携病院の指定に関する変更やご意見等あればご発言ください。

熊本赤十字病院右田委員より、以下の発言があった。

3 月末の私の退職に伴い、熊本赤十字病院は連携病院から離脱することとなり、4 月から赴任先の熊本医療センターにて連携病院の指定申請を行う予定である。その旨をお認め頂きたい。

大賀副委員長より、以下の発言があった。

熊本赤十字病院については小児がん診療を行う医師が不在となり、類型 1 および類型 3 の要件が満たせなくなり、令和 3 年度より協議会および連携病院から離脱する。また、令和 3 年 4 月より、会則の第 3 条 5 項に基づき、熊本医療センターが九州・沖縄ブロックの協議会に参加することを認め頂きたい。

上記について、異議なく承認された。

4. 小児がん地域計画書について

大賀副委員長より、資料 4、別紙資料 3 に基づき以下の説明があった。

・拠点病院にてブロックごとの令和 3 年度版小児がん地域計画書を作成し、協議会にて審議を行い、厚生労働省に提出する。拠点病院と連携病院との連携の評価につながる重要な計画書であり、九州・沖縄地域の色を活かした内容で作成している。

・2021 年度の新しい取り組みとしてブロック内での「小児がん看護研修」を開催し、「連携病院 Q1」に協力する。

・月例の Web 会議や九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会で先進的な小児がん診療の情報共有を行う。

・相談支援部会は前会の開催、施設間の情報共有、高校生の教育支援を継続していく。

・臨床研究については引き続き月例会議での情報共有を行い、また、がん素因を有する血液免疫疾患に対する根治療法の研究を進めていく。

・その他の項目として、引き続き COVID-19 のパンデミック化で起きている様々な課題を連携病院、隣接ブロックの小児がん拠点病院と意見交換を行い、解決策を講じていく。

小児がん地域計画書について異議なく承認された。

【報告事項】

5. 小児がん拠点病院連携協議会について

(1) 第 18 回小児がん拠点病院連携協議会報告

古賀委員より資料 5-1 に基づき、以下の報告があった。

・国立がん研究センターのホームページ内の小児がん情報サービズに新たに小児がん診療連携病院の情報と各施設のがんゲノム医療への対応についての情報が追加され、転院先等探字際に有用である。また、疾患に関する情報が正確に掲載されており、患者さんにとって有用な情報が満載なので、ぜひ患者さんへご紹介いただきたい。

・小児がんの集約化の現状について報告があり、年間の小児がんの新規患者数が年間 2000 件といわれていたが、2500～3000 件と増えているのは、脳脊髄腫瘍の捕捉率が上昇しているからではないかとの考察がなされている。

・LCAS は昨年 3 回開催され、アドバンス研修も 3 月 13 日に開催予定である。今年度は令和 3 年 10 月 2 日（土）に当院で Web にて開催する予定である。開催に際しては連携病院の先生方ご協力をお願いしたい。

・成育のエキスポバートパネルの実際として報告があり、2019 年 12 月からの検査実施が 24 例あり、治療標的だったのは 6 例、実際に薬剤に到達したのが 1 例だった。また、昨日の臨床腫瘍学会でも全国の成人を含めたがんゲノム医療のデータ報告がされ、治療に結びついたのは全体の 3 パーセントほどで、遺伝カウンセリングも 3%ほどしか結びついておらず、まだまだ低い割合といるのが現状である。小児がん特有の課題を克服し、今後の小児がんゲノム医療体制を整えるため「小児がんゲノムコミュニケーション」を立ち上げ、学会や JCCG と連携していくとの報告があった。

(2) 第 13 回小児がん拠点病院連絡協議会・相談支援部会報告

清水相談員より資料 5-2 に基づき、以下の報告があった。

厚労省より「がん患者・経験者の治療と仕事の両立支援施策の現状について」の報告と国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科の荒川歩先生より「小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究（大隅町）の分担研究について」の報告があった。また、今後、小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会より「小児・AYA 世代がん患者の教育に関する要望書」を厚労省と文科省に提出する予定となっており、その内容について意見交換を行った。

(3) 第 5 回小児がん拠点病院病理診断部会報告

小田副委員長より資料 5-3 に基づき、以下の報告があった。

中央病理診断症例数は年々増加し、また脳腫瘍の診断が非常に複雑化しているため、様々な免疫染色や分子遺伝学的解析などを行っている。その解析に係るコストは JCCG が負担しているわけではなく、中央病理診断を行う施設が研究費などを使い自腹で行っている現状がある。また、標本を送付する際の梱包作業や事務的な手続き等を病理の医師が行っている施設もあり、マンパワー不足や予算の確保について問題提起された。

(4) 厚生労働科学研究 松本班 班会議報告

武本委員より資料 5-4 に基づき、以下の報告があった。

・成育医療研究センターの松本先生が中心となり、小児がん診療に関する医療の質を表す指標 (Quality Indicator: QI) を全国の小児がん拠点病院において算定してきた。各施設で算定された QI を集計・比較することで小児がん医療提供体制の質の評価を行い、医療体制を充実させていくことを目指している。

・令和 3 年度から開始予定であったが、QI の算定を小児がん拠点病院の要件に組み込むことが検討されており、小児がん拠点病院指定要件見直しの WG が 2021 年 7 月頃発足予定のため、提言等があればそれまでにまとめる必要があると分かり、予定を前倒しして実施することとなった。そのため、今年度から小児がん拠点病院の QI と並行して小児がん連携病院を対象とした QI を策定し、算定を開始することとなった。連携病院 QI の提出期限は 4 月 16 日（金）となっている。

(5) 厚生労働科学研究 大隅班 班会議報告

古賀委員より資料 5-5 に基づき、以下の報告があった。

がん対策推進総合研究事業として、「小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究」（大隅班）を行っている。九州・沖縄地域では私と鹿児島大学の岡本先生が分担研究に参加してい

る。小児がんとともに生きる子どもと家族に療養場所の選択度が公正に提示されること、その子がその子らしくその家族がその家族らしく「生ききる」ためにどうしたらよいかをいくつかの班に分かれて調査を行い、最終的にはガイドラインやブックレットが作成できるよう取り組んでいる。

6. 小児がん拠点病院について

活動報告

① 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議

古賀委員より資料 6-1 に基づき報告があった。

毎月第 4 月曜に開催し、多くの施設の先生方にご参加いただき症例検討や討論会を活発に行っている。第 62 回と第 65 回に COVID-19 に関するアンケート調査を行い、まとめたものを小児血液がん学会の学会雑誌へ投稿した。

② 九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議

清水相談員より資料 6-2 に基づき、以下の報告があった。

今年度もテレビ会議を 2 回と勉強会を 1 回を行い、第 3 回のテレビ会議をこの後開催する。勉強会では小児緩和ケアチームと共催でグループケアについての Web 講演会を行った。

③ 九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告

古賀委員より資料 6-3 に基づき、以下の報告があった。

・小児から AYA 世代まで、血液腫瘍、固形腫瘍、非腫瘍の患者さんを対象に、1 年間で延べ 422 件の緩和ケアチーム回診を行った。依頼内容は家族ケア、不安・抑うつが多かった。

・小児緩和ケアチーム勉強会第 36 回特別講演ではグループサポートやまぐちの京井和子代表を講師にお迎えし、「つながるグループケア」と題してご講演をいただき、デイスカッションを行った。九州・沖縄ブロックだけでなく全国にご案内し、Web 視聴に 185 名の参加申し込みがあった。

④ 九州大学病院小児がん相談支援活動報告

清水相談員より資料 6-4 に基づき、以下の報告があった。

・小児がん相談の内容の半数が社会的問題であった。外来患者からの相談は、学校生活や就学・就労支援に関するものが多く、必要に応じて関係機関と連携を図り対応している。入院中の患者・家族からは経済的負担や入院中の困りごとに関する相談が最も多かった。

・昨年は高校生患者の学校連絡会を相談員が中心となり、16 回開催した。

・昨年導入した学習サポートターナーは現在も感染対策に留意しながら活動している。高校生以上の患者を対象にしているが、受験を控えた中学 3 年生もサポートしている。来年度も継続して活動していく。

・第 3 回小児がんの子どもの教育を考える講演会では YouTube によるライブ配信を行った。特別講演講師に昭和大学大学院保健医療学教授の副島賢和先生をお迎えし、「子どもの喪失によりそう〜病弱教育の視点から〜」と題し、ご講演いただいた。

⑤ 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第 5 回相談支援部会

清水相談員より資料 6-5 に基づき、以下の報告があった。

・1 月 14 日（木）にオンラインにて開催した。今年度は教育をテーマに就学支援についての意見交換や元院内学級中学期教諭で当院の小児がん相談員の江口相談員より、「学びの支援の充実をめざし

て～子どもたちの思いに寄り添いながら～」と題して、発表を行った。

・九州では沖縄県を除き、高校の院内学級が設置されており、各施設が独自に対応しているのが現状である。そこで相談支援部会終了後、高校教育に関する問題についてアンケート調査を実施し、資料としてまとめている（P50-54）。多くの施設が高校教育に関して困難を抱えている現状がわかった。各県の担当の方には今回のまとめた資料を教育担当の方へお伝えいただきたい。また、今後、協議会へ教育担当の方にもご参加いただければと考えている。

7. その他

(1) 令和2年度小児がん連携病院 QI 実務者説明会について

武本委員より資料 7-1 に基づき、以下の発言があった。

2月25日（木）に小児がん連携病院 QI 実務者説明会が Web にて開催される。QI 作成については、年度末の忙しい中大変恐縮ですが、先生方をはじめ実務担当の診療情報管理士、事務担当の皆様にご協力をお願いしたい。

(2) 小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会（LCAS）の開催について

大賀副委員長より資料 7-2 に基づき、以下の発言があった。

10月2日（土）に当院で Web にて開催する予定である。LCAS 委員の大園先生をはじめとして経験豊富な先生方がいらっしゃるるので、ぜひご協力をいただきたい。

【各県より報告】

8. 九州・沖縄地域各県の小児がんに関する取り組みについて

各県の担当者より、資料 8 に基づき、小児・AYA 世代がん患者に関する支援の取り組み状況について報告があった。

福岡県	妊産性温存に関する支援事業、在宅療養生活支援事業、高校生のがん患者への学習支援事業、ワクチン再接種費用の助成事業についてはすでに行っており、妊産性温存に関する支援の国庫補助事業の創設に伴い、事業内容の変更を検討中。令和3年度より、がん患者に対するアピアランスケア助成事業の実施を検討している。診療施設との連携についてはがん対策推進協議会において報告をいただいている。
佐賀県	資料 58 ページに佐賀県で行っている妊産性温存に関する支援事業、在宅療養生活支援事業、高校生のがん患者への学習支援事業、予防接種再接種事業について資料をまとめている。また、令和3年度より、オンライン教育環境整備事業の実施を検討している。
長崎県	妊産性温存に関する支援事業については、令和3年度の予算に計上している。国の内容が固まり次第、スタートできるよう整えていく。高校生の学習支援については、先生と生徒が SNS でつながる仕組みを構築し、生徒が気軽に相談できる体制を整えている。また、令和3年4月以降、県立高校全生徒にパソコンの貸与を行い、リモート授業の充実を図る。私立学校においては把握できていない。ワクチン再接種については県としての助成はないが、一部の市町村で助成している。診療施設との連携については長崎大学病院を中心に分野ごとに WG が設置されている。小児・AYA 世代の WG は設置されていないが必要に応じて情報共有している。
熊本県	妊産性温存に関する支援については、今年度より助成を開始した。国庫補助事業の創設に伴い、事業内容を検討していく。また、熊本大学病院の生殖医療・がん連携センターへの助成を通じて、都道府県拠点病院と地域の拠点病院との情報共有、連携強化を図っている。診療施設との連携についてはがん対策推進協議会を通じて、課題整理と進捗管理を行っている。

大分県	妊産性温存に関する支援については、今年度より助成を開始した。国庫補助事業の創設に伴い、事業内容を検討していく。また、今年度より、大分県がん患者社会参加応援事業を開始し、ウィッグ、乳房補正具等購入費用を費用の 1/2、上限 2 万円まで助成している。診療施設との連携についてはがん対策推進協議会等において情報共有を図っている。
宮崎県	来年度から始まる国の研究事業や他県の実施状況をふまえ、助成事業の実施について検討予定。がん・生殖医療ネットワークの構築に向け関係医療機関と連携しながら準備中。
鹿児島県	昨年度より、がん・生殖医療ネットワークと連携し、がん患者の妊産性温存に関する相談支援体制を整備した。今後は他県のような事業化に向けて検討していく。平成30年度より若年末期がん患者に対する療養支援事業を実施している。診療施設との連携については県がん診療連携協議会等において情報共有を図っている。

九州がんセンター中山委員より、以下の発言があった。

高校3年生の患者さんは18歳の誕生日を迎えたかどうかで小児慢性特定疾患申請の対象の可否が分かれる。18歳になって小児がんを発症した高校生に対しても対象の拡大を検討できないか。対象の患者さんの数自体は多くないので、拡大したところで財政がひっ迫するようないかなければならないかと個人的には思っている。

福岡県担当者より、小児慢性特定疾患に関するこのようだったご意見はよく聞かれる。国の制度となっているため今このところ福岡県では検討していない。との発言があった。

広島大学病院唐川医師より、18歳未満で発症し、小児慢性特定疾患の対象となった場合は、20歳まで継続できるが、18歳以上で発症した場合は対象とならない。これはこの県でも同じであると認識している。との発言があった。

大賀副委員長より、これは全国で統一された制度で各県ごととの違いはないということでしたら、中央の協議会等で発言していきたい、このような患者さんの不都合なことについては国へ届くように活動を進めてまいりたい。との発言があった。

【九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会および次回協議会の開催について】

大賀副委員長より、以下の発言があった。

今年度の「九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会」は大分大学病院の末延先生をはじめ、各施設の先生方にご協力をいただき、九州大学病院から Web 配信にて開催した。また、「小児慢性固形腫瘍研究会」も月例の Web 会議や「九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会」と合同で開催した。今年度は協議会と研究会を別日に設定したが、来年度は同日に開催し、日程は令和4年1月8日（土）、開催方式は Web もしくはハイブリットでの開催を検討している。また、来年度の持ち回り当番を熊本県が長崎県にお願したいと考えている。月例の Web 会議の際にまたご検討いただきたい。

III 閉会挨拶

大賀副委員長より閉会の挨拶があった。

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会（議事録送付）及び（書面回議）の開催について（依頼）

小児がん拠点病院事務局
2021/03/02 (火) 11:01
宛先: aa030320@pref.okinawa.jp

第16回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会
413 KB

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会
委員各位

日 令和3年3月2日

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会
委員長 赤司 浩

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 議事録送付 及び 書面回議の開催について（依頼）

令和3年2月22日にTV会議にて開催しました第16回九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会にご参加くださりましてありがとうございます。

標記の件、協議会委員の皆様へ2点ご依頼がございます。

①協議会の議事録を作成いたしましたので、ご確認のほどよろしくお願いたします。
内容についてご意見等ございましたら3月15日（月）までに本メールの返信にてご連絡願います。

②下記事項につきまして、追加の書面回議を開催いたします。
ついては、ご意見を令和3年3月15日（月）までに本メールの返信にてご連絡願います。
なお、期日までに返信がない場合には、承認として取扱いさせていただきますので、ご了承願います。

記

【議題】 大分県立病院の小児がん連携病院辞退について

大分県立病院では4月1日以降、小児がん診療を行う医師が不在となり、類型1の「地域の小児がん診療を行う連携病院」の要件が満たせなくなるため、令和3年度より協議会および連携病院から辞退することについて

（ ）承認する （ ）承認しない

※どちらかに○を追記ください。

※ご質問、ご不明な点がありましたら、下記担当までご連絡ください。

【審議結果】九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会（書面回議）の審議結果について

令和3年3月16日

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会
委員各位

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会
委員長 赤司 浩一

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会（書面回議）の審議結果について

標記の件につきまして、3月2日付の配布メールにてお諮りしておりました下記議題についての審議結果をご報告させていただきます。
委員の皆様には、お忙しい中ご協力いただきまして誠に有難うございました。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

記

【議題】 大分県立病院の小児がん連携病院辞退について

【審議結果】 承認

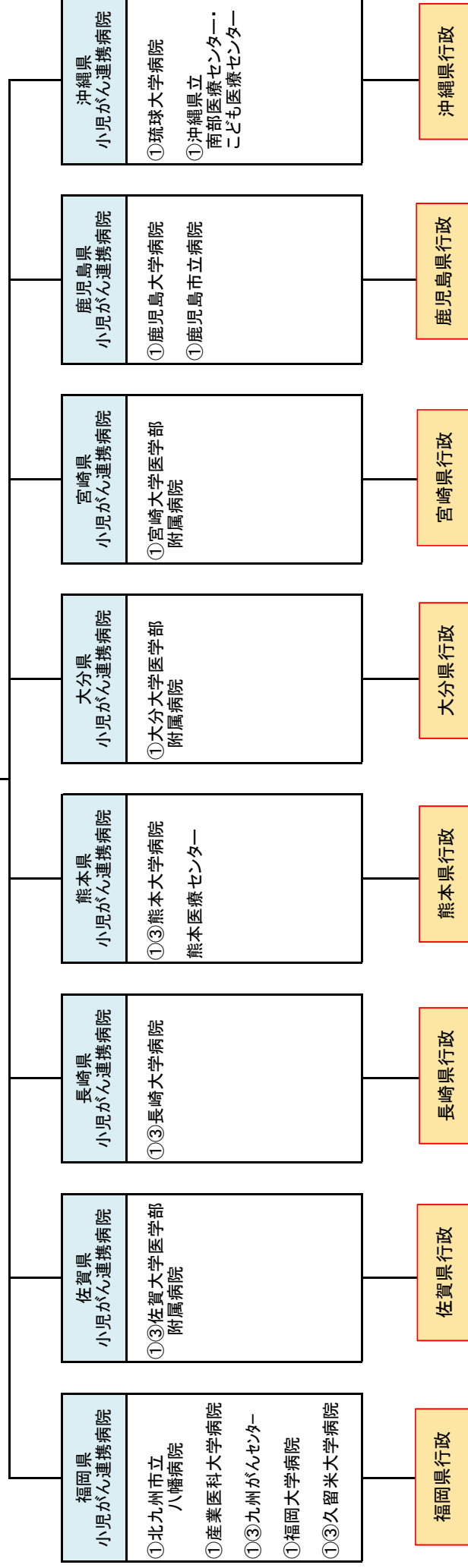
以上

令和3年度 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

九州大学病院
(小児がん拠点病院)
協議会委員長 赤司 浩一

《協議会の協議事項》
地域内の連携病院の役割分担・連携方法 等
※詳細は別途会則に定める。



【連携病院の類型】

- ①地域の小児がん診療を行う連携病院
- ③小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院

第 1 4 回小児がん拠点病院連絡協議会 議事次第

日時：令和3年6月22日（火）14：00～17：00

場所：オンライン

1. 開会挨拶
国立がん研究センター 理事長 中釜 斉
国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆
2. 厚労省挨拶
厚生労働省健康局がん・疾病対策課
課長補佐 成田 幸太郎

3. 報告事項

- (1) 小児がん中央機関からの報告 資料 1
- (1) 各部会からの報告 資料 2
- ① 相談支援部会
 - ② 看護部会
 - ③ 病理部会
- (3) 各ブロックからの報告 資料 3
- ① 昨年度の事業報告と今年度の事業計画
 - ② 小児がん地域計画書
- (4) その他 資料 4

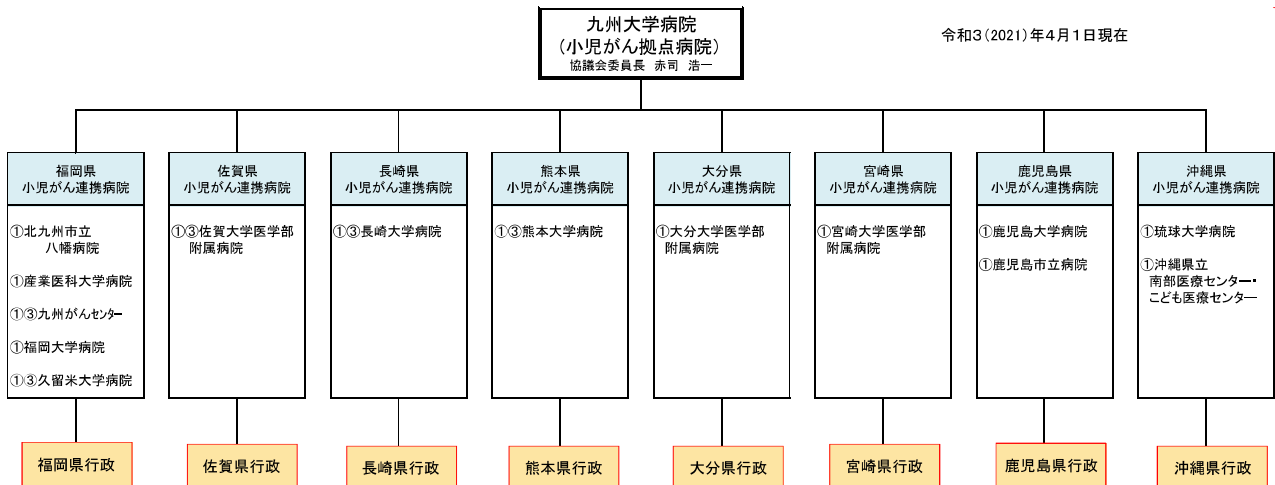
九州・沖縄ブロック

九州大学病院

小児科 教授 大賀 正一
 小児科 准教授 古賀 友紀
 小児外科 助教 武本 淳吉



九州・沖縄地域小児がん医療提供体制



【連携病院の類型】
 ①地域の小児がん診療を行う連携病院
 ③小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院

令和元年度より各県の行政が協議会へ参画



九州・沖縄地域 小児がん医療提供体制協議会



①令和2（2020）年度事業報告

- 1-1. 九州・沖縄ブロックの事業
- 1-2. 九州大学病院の取り組み

②令和3（2021）年度事業計画

3

第16回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 (WEB会議)

開催日：令和2年3月23日（月）

参加施設数：25施設（医療機関18施設、行政機関7施設）

令和元年度より各県の行政の担当者も参加しており、各県行政より『小児・AYA世代がん患者に関する支援』の取り組み状況について報告があった。

会議要旨

- 1) 小児がん拠点病院連絡協議会報告
- 2) 厚生労働科学研究 松本班 班会議報告
- 3) 厚生労働科学研究 大隅班 班会議報告
- 4) 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議について
- 5) 九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議について
- 6) 九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告
- 7) 九州大学病院小児がん相談支援活動報告
- 8) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第5回相談支援部会報告
- 9) 小児がん連携病院QI実務者説明会について
- 10) 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会（LCAS）について
- 11) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制および小児がん連携病院について
- 12) 小児がん地域計画書について
- 13) 九州・沖縄地域各県の小児・AYA世代がん患者に関する支援について（各県行政より報告）



4

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第5回 相談支援部会 (WEB会議)

開催日：令和3年1月14日(木)
場所：九州大学病院(小児がん拠点病院)
参加施設数：16施設

会議要旨

- 1) 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告
- 2) 教育に関する事前アンケートの結果報告・議題提示
 - ・大分大学医学部付属病院より議題提示
 - ・意見交換
- 3) 九州大学病院小児がん相談員の発表
「学びの支援の充実を目指して ～子どもたちの思いに寄り添いながら～」
九州大学病院 小児がん相談員 江口 尚美 (元院内学級中学位教諭)
・質疑応答、意見交換



新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインにて開催。教育に関する事前アンケートを実施し、各施設の実情を把握した。また、大分大学医学部付属病院より就学支援について議題提示があり、意見交換を行った。その中で各施設が高校教育について多くの課題を抱えていることが明らかとなり、九州・沖縄地域の長期療養児の高校教育に関する課題についての意見を取りまとめ、第16回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会にて各県の行政へ資料として配布した。

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 研修会・勉強会報告①

小児がん拠点病院ネットワーク事業 小児がん拠点病院テレビ会議(第61回～第69回)

- ・平成26年7月より、毎月第4月曜日16時より開催。(協議会全15施設+広島大学と接続)
- ・令和2年度は「第49回九州地区小児固形悪性腫瘍研究会」の14症例も発表している。

◎第61回(令和2年5月25日) 当番施設：琉球大学病院

症例提示	「治療に難渋している小児胆管中皮腫の1例」	琉球大学病院 小児科 百名伸之
討論会	「がんゲノム医療について」	琉球大学病院 小児科
研究会発表	「大網に発生した巨大脂肪芽腫の1例」	琉球大学大学院 消化器・腫瘍外科学講座 久田正昭、他
	「脊柱管内に差込んだ脂肪芽腫の1例」	久留米大学医学部 外科学講座小児外科 部門 坂本早季、他

◎第62回(令和2年6月22日) 当番施設：鹿児島大学病院

討論会	「小児がん診療におけるCOVID-19」	鹿児島大学病院 小児科
研究会発表	「腹腔鏡手術により摘出した副腎VIP産生神経芽腫の1例」	琉球大学大学院 消化器・腫瘍外科学講座 久田正昭、他

◎第63回(令和2年7月27日) 当番施設：産業医科大学病院

討論会	「血液腫瘍患者の診療体制について」	産業医科大学病院 小児科
研究会発表	「熱性けいれんを契機に見られた小脳多発腫芽腫の1例」	産業医科大学 小児科 加藤雅子、他
	「頭蓋内原発骨外鞘性骨肉腫のAYA世代症例」	九州大学 小児科 浅井 完、他

◎第64回(令和2年8月24日) 当番施設：九州がんセンター

討論会	「保険審査に関して」	九州がんセンター 小児科
研究会発表	「化膿性骨髄炎との鑑別に難渋した神経芽腫骨髄転移の症例」	大分大学医学部 小児科 平野直樹、他

◎第65回(令和2年9月28日) 当番施設：九州大学病院

討論会	「小児がん診療におけるCOVID-19～感染第2波をわかって～」	九州大学病院 小児科
研究会発表	「当院での先天性閉塞芽腫のまとめ」	九州大学大学院 小児外科学分野 洗井勇一、他
	「腎芽腫との鑑別に困難であった先天性腎毛細血管増殖症(CCFK)の新生児例」	佐賀大学 小児外科 山田耕治、他

◎第66回(令和2年10月26日) 当番施設：久留米大学病院

討論会	「小児がん患者を対象としたリハビリテーション」	久留米大学病院 小児科
研究会発表	「早期に多発脳転移を認めた左足原発乳児網膜肉腫の1例」	久留米大学 臨床研究センター 瀧尾 美穂、他
	「新規のVCL-ALK 融合遺伝子を伴ったHigh-gradeグリオーマの幼児例」	九州大学 小児科 山本俊亮、他

◎第67回(令和2年11月30日) 当番施設：鹿児島市立病院

討論会	「口腔ケアについて」	鹿児島市立病院 小児科
研究会発表	「左副腎に生じた巨大Ganglioneuromaの1例」	手稲薬仁会病院 外科 石井 生、他
研修カンファレンス	「当院における小児がん患者の口腔機能管理に対する看護師と歯科衛生士の連携体制」	鹿児島市立病院 歯科口腔外科 新田哲也 先生

◎第68回(令和3年1月25日) 当番施設：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

討論会	「臨床研究について」	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児科
研究会発表	「無治療経過観察で自然退縮を得た孤発性infantile myofibromatosisの1例」	九州大学大学院 医学研究院 小児外科 武本淳吾、他

◎第69回(令和3年3月22日) 当番施設：熊本大学病院

討論会	「妊孕性温存治療について」	熊本大学病院 小児科
研究会発表	「卵巣未熟奇形腫に合併した抗NMDA受容体脳炎の治療経験」	北九州市立八幡病院 小児救急・小児総合医療センター 早坂駿佳、他
	「肝芽腫との鑑別に難渋した新生児肝血管腫の1例」	長崎大学 小児外科 小波太一郎、他

九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 研修会・勉強会報告②

小児がん拠点病院ネットワーク事業 九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議

- 平成30年7月より年3回、第4月曜日17時より開催
- 参加施設数：16施設

◎第1回
開催日時： 令和2年7月27日（月）17：15～18：15
テーマ： 「新型コロナウイルス感染症対応」について
◎第2回
開催日時： 令和2年10月26日（月）17：15～18：15
テーマ： 「プレパレーション」について
◎第3回
開催日時： 令和3年2月22日（月）17：15～18：15
内 容： 「倫理に関する症例検討」

◎勉強会	令和2年度九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議勉強会【特別講演】 （第36回九州大学病院小児緩和ケアチーム勉強会と共催）
開催日時：	令和3年1月25日（月）17：15～18：15
内 容：	WEB講演会 演題「つながるグリーフケア」
講 師：	グリーフサポートやまぐち 京井 和子 代表



中国・四国ブロックネットワーク会議

隣接するブロックとの連携を図るため、中国・四国ブロックの会議にも参加しており、医師・看護師・小児がん相談員が広域で連携し検討、情報交換を行っている。

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 研修会・勉強会報告③

小児がん医療従事者研修事業 第36回小児緩和ケアチーム勉強会 特別講演

- 開催日時： 令和3年1月25日（月）17:15～18:15
- 開催方法： YouTubeによる限定ライブ配信
- 演 題： 「つながるグリーフケア」
- 講 師： グリーフサポートやまぐち 京井 和子 代表
- WEB視聴申し込み数： 185名（院内:80名 院外:105名）
- 視聴会場での参加者： 25名



小児がん相談支援事業 第3回小児がんの子どもを育てる講演会 ～長期療養中の教育支援を考える～

- 開催日時： 令和2年9月5日（土）14:00～16:00
- 開催方法： YouTubeによる限定ライブ配信
- 特別講演： 「子どもの喪失によりそう～病弱教育の視点から～」
- 講 師： 昭和大学大学院 保健医療学研究科准教授 副島 賢和 先生（赤鼻のセンセイのモチーフ）
- 参加申し込み者数： 213名

九州・沖縄地域 小児がん医療提供体制協議会



①令和2（2020）年度事業報告

- 1-1. 九州・沖縄ブロックの事業
- 1-2. 九州大学病院の取り組み

②令和3（2021）年度事業計画

9

小児緩和ケアチーム 活動報告

令和2年度小児緩和ケアラウンド実績

- 令和2年4月～令和3年3月実績件数 415件
- 週1回、カルテ回診・病棟回診、非がん患者にも対応している。



小児緩和ケアチーム勉強会

第32回、第33回、第36回は会場での参加を制限し、ZOOMによるライブ配信を行った。

	日時	演題・開催方法等	開催方法	参加人数
第32回	2020年5月26日（火） 17:00～17:30	九州大学病院 小児科 助教 小野 宏彰 先生 「こどもの鎮痛について」	会場参加人数を制限して開催 及び LIVE配信 (zoom)	33名 (配信22名)
第33回	2020年7月28日（火） 17:00～17:30	九州大学病院 リハビリテーション部 落石 慶衣 理学療法士 「小児緩和ケアチームにおけるリハビリの役割」	会場参加人数を制限して開催 及び LIVE配信 (zoom)	26名 (配信11名)
第34回	2020年9月8日（火） 16:20～16:50	九州大学病院 小児科 特任講師 石井 加奈子 先生 「染色体・遺伝子に変化を伴う疾患の特性と多様性 ～正しい理解と支援のために～」	通常開催	33名
第35回	2020年11月24日（火） 17:00～17:30	九州大学病院 がんセンター緩和ケアチーム 廣瀬 亜由美 看護師 「意思決定をささえるために ～緩和ケアチームの活動を通じてみてきたもの～」	通常開催	27名
第36回	2021年1月25日（月） 17:15～18:15 特別講演	グリーンサポートやまぐち 京井 和子 代表 「つながるグリーンケア」	会場参加人数を制限して開催 及び LIVE配信 (YouTube)	視聴申込 185名 会場参加 25名
第37回	2021年3月23日（火） 17:00～17:30	西南女学院大学 保健福祉学部 准教授 笹月 桃子 先生 「あらためて緩和ケアとは」	通常開催	37名

小児がん相談支援センター 活動報告①

拠点病院としての取り組み

◎相談支援部会の開催

◎九州・沖縄地域の連携病院間での連携強化

◎高校生（AYA世代）の患者への学習支援

令和2年度小児がん相談支援センター相談件数

	対面	電話	その他	合計
小児科病棟	159	7	0	166
相談支援センター	125	77	3	205
学校連絡会	15			15
合計	299	85	3	387

九州・沖縄地域の連携病院間での連携強化

拠点病院と連携病院間だけでなく、連携病院間においても日頃から情報交換や相談ができるような環境の整備を進めている。また、研修会などの開催に関して適宜情報共有をしている。

「小児がんの患者さんとご家族のためのサポートブック」をホームページに公開

<掲載内容>

1. 小児がん相談窓口について
2. 医療費に関するもの
3. 病気や治療に伴う障害に関するもの
4. 療養生活支援
5. 教育・就労支援
6. 患者会・支援団体
7. 情報収集
8. 子供さんへのサポート

患者さんやご家族だけでなく医師・看護師・MSW等にも有用であり、**地域性に則した内容**となっている。



治療マニュアル「これから治療を受ける小児がんの子ども・家族のための手引き」

医師・歯科医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・院内学校教諭・保育士・親の会そして相談員の立場から、小児がんと診断された子どもやごきょうだい、ご家族のこと、治療以外の日々の生活や学校のことなどをそれぞれの立場から記している。患者さん、ご家族および九州地区の小児がん連携病院、全国の15拠点病院にも配布している。



小児がん相談支援センター 活動報告②

学校連絡会の開催

学校と病院をWEB会議システム等でつなぎ、退院が近い患者さんについてきめ細やかな情報共有が行えるよう、サポートを行っている。

令和2年度は15回開催



AYA世代（高校生）の遠隔授業のサポート

今年度はコロナ対策により、多くの学校でWeb授業が可能となり、高校生が病室で授業を受けることができるきっかけとなった。高校との学校連絡会を開催して情報共有し、相談員が担任の教員と連携を図り、課題の受け渡しや必要な機材の貸し出し等のサポートを行い、学校と病室をつないだWeb授業を実現している。

学習サポーターによる学習支援

昨年導入した学習サポーターの活動を継続している。感染対策に留意しながら、主に高校生や中学生を対象に、学習指導を行っている。学習サポートを受けた患者さんやご家族からは大変好評を得ており、令和3年度は4名の学習サポーターが週2日、交替で活動している。

令和2年度のサポート人数は延べ159人

グリーフカードの配布

小児緩和ケアチームの活動の一環として、グリーフカードの配布を行っている。ご遺族が当院でのグリーフケアを希望された際に、当院への連絡手段のひとつとなることを目的とし、グリーフケアも積極的に行っている。必要に応じて緩和ケアラウンドにて検討し、年3回グリーフカードWGを開催している。

また、令和2年度は医療者向けのWeb勉強会を開催し、院内外の医療従事者へグリーフケアの重要性を周知した。



AYA week 2021 『九州AYA応援フラッグリレー』

九州がんセンターからの呼びかけで、九州・沖縄地区の医療機関他、ソフトバンクホークス、アビスパ福岡など24団体が参加。期間中は小児医療センターのスタッフの協力で作成した『応援フラッグ』を院内に掲示した。



患者の発育および教育に係る環境整備 付添い家族への支援

九州大学病院における
小児がん患者の
教育支援・復園、復学支援



- 未就学児：院内保育士による保育活動
プレイルーム完備
- 小中学校：院内に千代小・中学校病弱特別支援学級
学校連絡会の開催
- 高校生：院内関係者と地元高校教諭との個別連携
学習スペース設置
学習サポーターによる学習支援



院内学級（小学部・中学部）

病弱特別支援学級に転籍することで学習機会を失わず治療を続けることができる。卒業式や各種イベントには医師や病棟スタッフも参加。退院の前にはWEB会議システムを利用して学校連絡会を開催し、原籍校との情報共有を図っている。高校生のための院内学級は未設置だが、学習サポーターによる学習支援を行っている。また、「小児がんの子どもの教育を考える講演会」の開催や、県教委を訪問して情報共有するなど、長期療養中の学習支援の必要性について啓発活動に努めている。

AYA世代のための学習スペース Study Place -AYA-

高校生以上の患者さんが学習に使用できるスペースを設置し、高校の遠隔授業や週2回の学習サポート、自主学習等で利用している。

令和2年度の利用者数：延べ132人



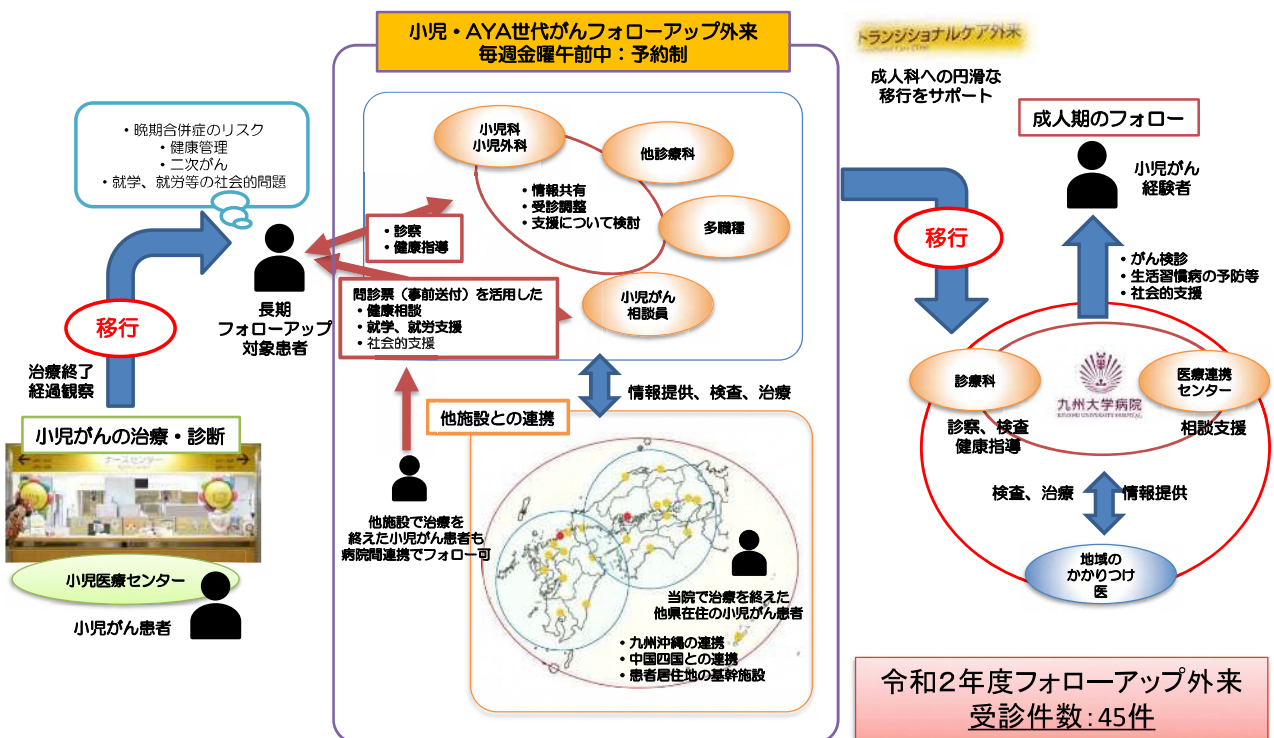
ファミリーハウス宿泊補助

18歳以下の子どもさんのご家族が「患愛回森の家」を利用される際、1泊につき1000円で宿泊できるよう、宿泊費の補助をしている。

令和2年度の補助件数：535件

小児・AYA世代がんフォローアップ外来

治療を乗り越えた子どもたちへ ～院内、院外の連携で切れ目のない支援を目指します～



九州・沖縄地域 小児がん医療提供体制協議会



①令和2（2020）年度事業報告

- 1-1. 九州・沖縄ブロックの事業
- 1-2. 九州大学病院の取り組み

②令和3（2021）年度事業計画

15

令和3(2021)年度事業計画

◎第17回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会（WEB会議）
(令和4年1月7日)

◎第6回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会
(WEB会議)

◎九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会研修会・勉強会

- ▶九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議（年12回）
- ▶九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議（年3回）
- ▶九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議勉強会（令和4年1月24日）
- ▶九州・沖縄ブロック小児がん看護研修会
- ▶小児・AYA世代がんの長期フォローアップに関する研修会（令和3年10月2日）
- ▶小児緩和ケアチーム勉強会（年5回）
- ▶小児緩和ケアチーム勉強会 特別講演
- ▶小児がんのこどもの教育を考える講演会（令和3年9月10日）
- ▶九州・山口小児血液・免疫・腫瘍研究会（令和4年1月8日）
- ▶九州地区小児固形悪性腫瘍研究会（令和4年1月8日）
- ▶がんの子どもを守る会と共催の市民公開講座（令和4年1月8日）

16

令和3年度 小児がん拠点病院事業計画

・研修会、講演会

名称	受講者数	対象者	開催予定日	開催予定数	分類
九州・沖繩ブロック小児がん拠点病院テレビ会議 (症例提示・討論会・研修カンファレンス)	30人/1回	医師、看護師及びメデイカルスタッフ	毎月第4月曜日16:00～	12	小児がん拠点病院ネットワーク事業
九州・沖繩ブロック小児がん看護ネットワーク会議	30人/1回	看護師	第4月曜日17:15～	3	小児がん拠点病院ネットワーク事業
九州・沖繩ブロック小児がん看護ネットワーク会議勉強会	50人/1回	看護師及びメデイカルスタッフ	令和4年1月24日(月)	1	小児がん医療従事者研修事業
九州・沖繩ブロック小児がん看護研修会	30人/1回	看護師	令和3年10月30日(土)	1	小児がん医療従事者研修事業
小児緩和ケアチーム勉強会(院内講師)	50人/1回	医師、看護師及びメデイカルスタッフ、院内学級教諭、保育士	奇数月第4火曜日	5	小児がん医療従事者研修事業
小児緩和ケアチーム勉強会(特別講演・院外講師)	150人/1回	医師、看護師及びメデイカルスタッフ、院内学級教諭、保育士など	令和3年11月5日(金)	1	小児がん医療従事者研修事業
小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(L-CAS)	未定	医師、看護師及びメデイカルスタッフ	令和3年10月2日(土)	1	小児がん医療従事者研修事業
小児がんのこどもの教育を考える講演会	100人/1回	医師、看護師及びメデイカルスタッフ、院内学級教諭、院外教諭、相談員(社会福祉士、CLSなど)、患者さんとそのご家族、患者会・ボランティア団体	令和3年9月10日(金)	1	がん相談支援事業
九州・山口小児血液・免疫・腫瘍研究会	200人/1回	医師、看護師及びメデイカルスタッフ	令和4年1月8日(土)	1	小児がん医療従事者研修事業
九州地区小児固形悪性腫瘍研究会	60人/1回	医師、看護師及びメデイカルスタッフ	令和4年1月8日(土)	1	小児がん医療従事者研修事業
がんの子どもを守る会と共催のイベント	150人/1回	一般市民	令和4年1月8日(土)	1	がん相談支援事業
九州・沖繩地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会	30人/1回	相談員(看護師、社会福祉士、CLSなど)	令和4年1月7日(金)	1	小児がん拠点病院ネットワーク事業

・地区ブロック協議会

名称	参加者	開催予定日	開催予定数	分類
九州・沖繩地域小児がん医療提供体制協議会	協議会委員(連携病院・九州沖繩地域各県の小児がん担当部署)	令和4年1月7日(金)	1	小児がん拠点病院ネットワーク事業

・院内会議

会議名	開催数
小児がん拠点病院運営委員会	年1回開催
小児緩和ケア運用検討WG	年2回開催
小児緩和ケアチーム グリーフカードWG	年3回開催

・広報物、冊子作成

名称	配布形式	主な配布先	分類
小児がん患者さんご家族のためのサポートブック(更新)	冊子・WEB公開	患者さん・小児がん診療連携施設	がん相談支援事業
これから治療を受ける小児がんのこども・家族のための手引き ～安全・安心に治療を受けるために～(更新)	冊子	患者さん・小児がん診療連携施設	がん相談支援事業

【その他】

- ・ブレイクタイム運営事業
(寄付金より支出)
- ・学習サポーター(R3は補助金からの支出を検討)
- ・コスモスハウス運営補助事業(R2年度より)

九州大学病院

第4回

小児がんのこどもの
教育を考える講演会

講演会テーマ

病気療養中の小中高校生の教育の充実を求めて
～学校と病院で連携してできる支援のあり方～令和3年 9月10日 金
17:00～19:0017:05～
時間15分

— 現状報告 —

「親の会からの支援」

親の会すまいる 代表

内藤 真澄

「学校と病院でつながりながら」

九州大学病院 小児がん相談支援センター

小児がん相談員 (元院内学級教諭)

江口 尚美

「九州大学病院の高校生への支援」

九州大学病院 小児がん相談支援センター

小児がん相談員

池田 世里奈

WEB会議システムを使用したライブ配信

対象者：小児がん医療従事者、教育関係者、一般市民

18:35～
時間20分

— ディスカッション —

学校と病院で
連携してできる
支援のあり方17:20～
時間25分

— 経験者の声 —

「長期入院を乗り越え
復学したこどもたち」

「担任としてこどもを支えた先生」

「我が子の入院を
支えた保護者」17:55～
時間40分

— 特別講演 —

日々の学校生活を
よりよいものに
していくために

～子どもとの対話と大人たちの協働を力として～

神戸松蔭女子学院大学 教育学部

教育学科 教授

谷川 弘治 氏

参加費無料
要事前申し込み

【プログラム】

- 開会の挨拶 17:00～17:05
- 現状報告「今、病院では…」 17:05～17:20
- 経験者の声 17:20～17:45
- 休憩 17:45～17:55
- 特別講演 17:55～18:35
- ディスカッション 18:35～18:55
- 閉会の挨拶 18:55～19:00

| 開会の挨拶

九州大学病院 小児科
教授 大賀 正一

| 第1部 司会

九州大学病院 小児がん相談支援センター
小児がん相談員 清水 絵里花

| 第2部 司会・閉会の挨拶

九州大学病院 小児科
准教授 古賀 友紀

【申し込み方法】

9月6日(月)までに下記アドレスの
申し込みフォームもしくは右記のQR
コードにアクセスし、必要事項をご
記入の上、お申し込みください。

【申し込みフォーム】

<https://forms.gle/WEVoPbU8Zaa7e3Fr8>

【問い合わせ先】

九州大学病院小児がん拠点病院事務局

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

TEL.092-642-5093 FAX.092-642-5100

E-mail: childcenter@jimu.kyushu-u.ac.jp

主催 | 九州大学病院

共催 | 親の会すまいる、がんの子どもを守る会九州北支部、福岡県・福岡市難病相談支援センター

後援 | 福岡県、福岡市、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

九州大学病院 第4回小児がんのこどもの教育を考える講演会

「病気療養中の小中高校生の教育の充実を求めて～学校と病院で連携してできる支援のあり方～」

開催報告

●開催日時：令和3年9月10日（金）17:00～19:00

●開催方法：YouTubeによる限定ライブ配信（9/10（金）～9/20（月）までアーカイブ配信）

- ・視聴希望者数： 419名
- ・総再生回数： 751回（9月10日～20日）
- ・開催日の再生回数： 429回（9月10日）
- ・視聴者アンケート回答者数： 93名

主催：九州大学病院

共催：親の会すまいる

がんと子どもを守る会九州北支部

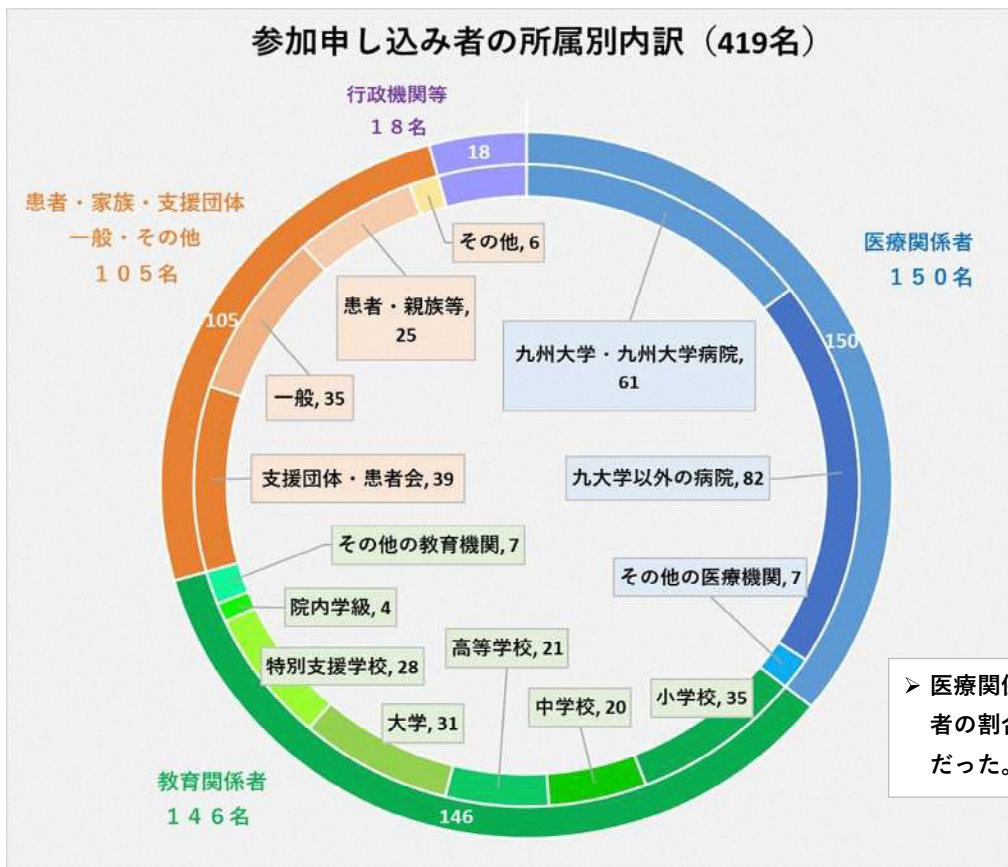
福岡県・福岡市難病相談支援センター

後援：福岡県 福岡市

福岡県教育委員会 福岡市教育委員会

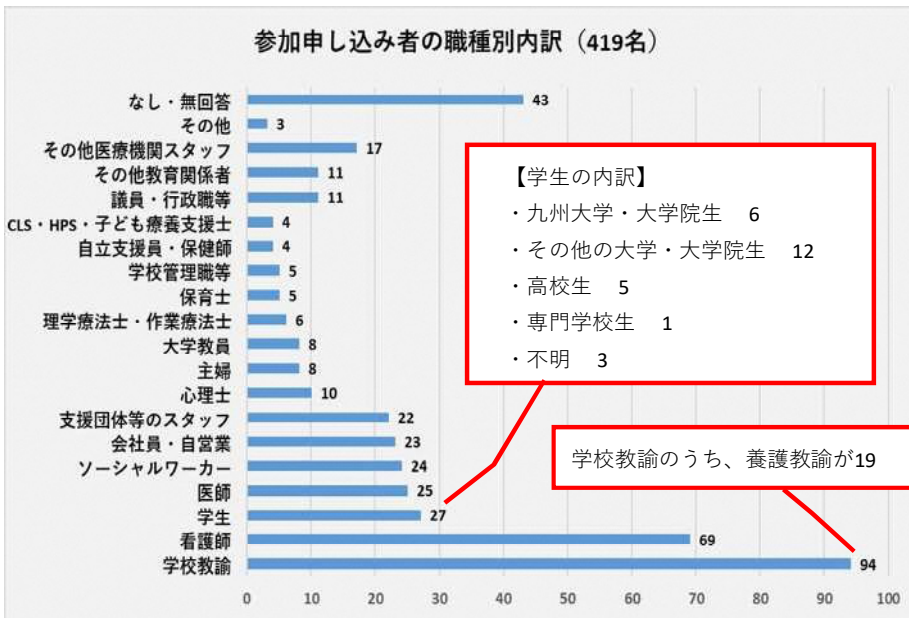
協力：九州大学病院アジア遠隔医療開発センター

参加申し込み者の所属別内訳（419名）



➤ 医療関係者と教育関係者の割合は同じくらいだった。

参加申し込み者の職種別内訳（419名）



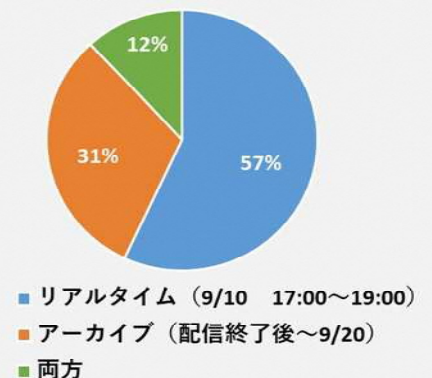
【学生の内訳】

- ・九州大学・大学院生 6
- ・その他の大学・大学院生 12
- ・高校生 5
- ・専門学校生 1
- ・不明 3

学校教諭のうち、養護教諭が19

➤ 昨年のアンケートでアーカイブ配信の希望が多く寄せられたため、期間限定で配信した。（配信終了後～9/20まで）

視聴した日時について



小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会
L-CAS (lifetime care and support for Child, Adolescent and Young Adult Cancer Survivors) 開催報告

開催日：令和3年10月2日（土）9：30～16：00
 主幹施設：九州大学病院
 開催方法：Zoomを使用したオンライン開催
 参加人数：受講者42名
 運営スタッフ21名（九州大学病院、九州・沖縄ブロック小児がん連携病院）

開催目的（一般社団法人 日本小児血液・がん学会より）

小児がんの80%以上に治癒を期待できる時代になりましたが、治療終了後の問題については医療者の間でさえまだ十分な理解が得られていません。このたび、小児・AYA世代（思春期・若年成人）のがんの長期フォローアップと小児から成人への移行期医療の重要性を、医師・看護師および関係職種の方々に認識していただくために、厚生労働省の委託事業の一環として研修会を開催することになりました。

研修会プログラム

No	内容
1	研修会の概要説明
2	講義：e-Learning内容の振り返り
3	講義：長期フォローアップの方法と準備
4	グループワーク1（長期フォローアップの方法と準備）
5	グループワーク1の発表、意見交換
6	講義：長期フォローアップの実際、GW2説明
7	グループワーク2（長期フォローアップの実際）
8	グループワーク2の発表、意見交換
9	まとめ

研修会当日の様子

運営スタッフは九州大学病院に集まり、受講者はオンライン参加のハイブリッド形式で研修会を開催した。



令和3年度

九州・沖縄ブロック 小児がん看護研修会

令和3年 **10月30日** **土**
9:00 - 12:30

定員100名
参加費無料

- 対象者：小児がん看護に携わる看護師
- 開催方法：Web 会議システムを使用したオンライン開催
- 申し込み方法：
10月25日(月)までに下記申し込みフォームもしくはQRコードにアクセスし、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。
- 申し込みフォーム：<https://forms.gle/9HXKzfeCqT3UAtAY6>



◎プログラム *Program*

オリエンテーション 9:00-9:05

小児がん治療の最新情報 9:05-10:05
(10分質疑応答)

古賀 友紀 九州大学病院 小児科 准教授(周産期・小児医療学講座)

子どもの意思決定支援 10:10-11:10
(10分質疑応答)

笹月 桃子 西南女学院大学 保健福祉学部 教授・九州大学病院 小児科 特任助教

子どもの意思決定支援の実際 11:15-11:45
(10分質疑応答)

渡部 秀美 九州大学病院 看護部 小児看護専門看護師

きょうだい支援について 11:50-12:20
(10分質疑応答)

池田世里奈 九州大学病院 小児医療センター 子ども療養支援士・小児がん相談員

アンケート回答 12:25-12:30

主催／九州大学病院(小児がん拠点病院)

技術協力／九州大学病院国際医療部アジア遠隔医療開発センター(TEMDEC)

問い合わせ先／九州大学病院小児がん拠点病院事務局 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

TEL:092-642-5093 FAX:092-642-5100 E-mail:childccenter@jimu.kyushu-u.ac.jp

第41回 九州大学病院 小児緩和ケアチーム勉強会 特別講演

演題 **今後の日本の緩和ケア**
～神経難病の緩和ケアと意思決定支援を中心に～

令和3年 **11月5日** 金
18:00～19:00

オンラインセミナー
WEB開催

国際医療福祉大学医学部 医学教育統括センター教授、脳神経内科学教授
国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学教授
国際医療福祉大学市川病院神経難病センター長、脳神経内科部長

演者

荻野 美恵子 先生

高度に発展した現代医療によっても病気の治癒が望めないとき、それでもなお、私たち医療者が果たすべき、また尽くし得る医療・ケアとは何か。

我が国における非がんの緩和ケアの第一人者、荻野美恵子先生をお迎えし、神経難病診療の最前線で、いかにこの厳しい問いに向き合ってこられたか、お話いただきます。

今ある課題を分かち合い、これからの希望に考えを馳せる機会となることを願っています。

どうぞ奮ってご参加ください。

お申し込み先



申込方法

11月1日(月)までに下記申し込みフォームURLもしくはQRコードにアクセスし、必要事項をご記入の上、お申し込みください。

申し込みフォームURL

<https://forms.gle/7q23XUbiSu4JEmKG6>

院内外より多くの皆様のご参加をお待ちしております。

参加費無料
(職種不問)

主催：九州大学病院 小児緩和ケアチーム

共催：新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

協力：九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター

問い合わせ先：九州大学病院小児がん拠点病院事務局 TEL.092-642-5093 E-mail:childccenter@jimu.kyushu-u.ac.jp